

令和4年度 学校評価一覧

佐野市立北中学校

()内は昨年度

目標	重点項目	主な具体策 (教師が何をするか)	評価指標 (それにより対象がどうなるか)	評価方法・評価基準	関連 アンケート等	肯定 回答	教職員による自己評価	学校評議員による学校関係者評価
自ら学び考える生徒へ知育V	①学習指導の工夫改善	●学習のめあての明確化と振り返りの実施、板書の工夫やICTの活用等により、分かる授業の展開に努める。	●学習に見通しを立てたり成就感を味わわせたりすることにより、生徒が主体的・意欲的に授業に臨んでいる。	●生徒・保護者対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上	生7No.2 保7No.1	90% (91%) 81% (81%)	◆「めあて」「まとめ」「振り返り」を明確にすることで、分かりやすい授業につながっている。引き続き、生徒が主体的に取り組む、確かな学力の定着につながる授業づくりに努めたい。 ◆板書やワークシートの工夫、タブレット端末などのICT機器を活用することで、生徒がより意欲的に学習に取り組むようになった。今後もICT機器の効果的な活用について工夫を重ねていきたい。	◆何らかの事情で登校できない生徒に、タブレット端末を活用して、リアルタイムで授業をオンライン配信してくれている。生徒・保護者にとって、とてもありがたいことだと思う。今後も継続してほしい。 ◆家庭学習をいつも提出する生徒とそうでない生徒がいるのは、目的意識を感じているかどうかと関わっているのではない。中学生のうちから目的をもって学習に取り組むようにすることが、将来職業に就いた後も、学び続ける人間となることにつながると思う。今のうちから学ぶ姿勢の基盤をつくってほしい。
	②家庭学習の習慣化	●「家庭学習の手引き」や「あゆみノート」等を活用して、家庭学習の意義や方法を伝え、習慣化を図る。	●主体的に学ぼうとする意欲が高まり、生徒が家庭学習ノートを主体的に提出している。	●家庭学習ノートを提出している生徒の割合 →80%以上の生徒が提出	生7No.5 保7No.2	74% (81%) 59% (60%)	◆家庭学習ノート等の提出を習慣化することで家庭学習の定着を図り、学力向上につながるよう、日々言葉掛けをする。毎日本ノートを提出している生徒の割合は74%であったが、その内容については様々である。家庭学習の意義等をしっかり理解し、進んで取り組むようにするとともに、引き続き保護者の方にも御協力いただき、習慣化につなげていきたい。	
素直な心で感謝できる生徒へ徳育V	①良い習慣の定着	●全職員共通理解の下身に付けさせたい良い習慣(返事、挨拶、靴揃え、聞く態度、立腰、2分前着席等)について継続的に指導する。	●生徒が、返事、挨拶、靴揃え、聞く態度、立腰、2分前着席等を意識して生活している。	●生徒・保護者対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上	生7No.7 生7No.8 保7No.3	92% (95%) 90% (92%) 90% (87%)	◆生徒アンケートでは肯定的な回答が多く、日頃から良い習慣を意識しながら学校生活を送っていることがうかがえる。 ◆来校した多くの方々から、生徒の挨拶が素晴らしいとお誉めの言葉をいただいた。学校生活で身に付けた望ましい習慣を実践できるよう、継続して指導していきたい。	◆生徒は通学途中に出会ったときなどにも挨拶をしてくれる。挨拶は人として大切である。更に多くの生徒が勇気を出して挨拶できるよう、背中を押してほしい。 ◆悩みを抱える生徒にとって、担任の先生がまず話を聞いて、スクールカウンセラーなどの次の支援につなげてくれている。ライフルームは北中ならではの支援であり、ありがたい。 ◆道ばたに倒れていた小動物に手厚く接するなど、生命を尊重する心が育っていることがうかがえる。今後も授業をはじめ、さまざまな場面で豊かな人間性を育ててほしい。
	②生命尊重・人権尊重を基盤とした教育実践	●交通事故防止のための指導の充実、不登校生徒への適切な支援、いじめの未然防止と早期発見・早期対応に努める。	●交通事故や不登校生徒が減少するとともにいじめは許さないという意識が生徒に浸透している。	●交通事故件数の増減 →前年度同期より減少 ●不登校生徒数の増減 →前年度同期より減少 ●生徒・保護者対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上	事故の増減 不登校生徒数の増減 生7No.10 保7No.4	-2件 (-3件) -2人 (+3人) 92% (92%) 83% (81%)	◆交通安全主任を中心に注意喚起を継続した結果、ルールを遵守しようとする意識が高まり交通事故減少につながった。 ◆不登校生徒一人一人の状況に応じた支援をし、学校と家庭や地域社会とのつながりを継続できるよう取り組んでいきたい。 ◆今後も生活ノートや日々の生活はもちろん、生命人権尊重旬間や生活アンケート、教育相談などの機会を通して生徒に寄り添った支援・指導を心掛け、いじめのない学校づくりを目指していきたい。	
心身を鍛え健康な生徒へ体育V	①体力と運動技能の向上	●教科体育において敏捷性を強化する運動を工夫するとともに、耐性を育む体育的行事の充実に努める。	●生徒が体育の授業に意欲的に取り組むとともに、三義・唐沢縦走で完歩を目指そうとしている。	●生徒・保護者対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上 ●三義・唐沢縦走で完歩した生徒の割合 →前年度より増加	生7No.14 保7No.5 完歩率	94% (93%) 87% (87%) 93.2% (97.9)	◆新体力テストの結果を踏まえ、走力を向上させるために補強運動として短距離走を取り入れている。今後も継続して実施し、向上を目指したい。 ◆昨年度よりも距離が長くなったことが、完歩率の低下につながったと考えられる。次年度に向けて、各チェックポイント通過時刻の見直しを図るなどの工夫を重ね、生徒にとって思い出に残る有意義な活動にしていきたい。	◆教職員がまとまっていることが教育活動の充実に繋がっている。保健体育科の走力を向上させるための取組でも、その効果が現れている。今後も教育活動全体を通じて、体力の向上と心身の健康の保持増進に努めてほしい。 ◆三義・唐沢縦走は、前年度よりも歩く距離が伸びたことで完歩率が低下したが、たとえ完歩できなくても、自分で決めた目標の達成感や達成感が、次年度への目標となっている。耐性を育むねらいも大切である。今後も感染状況を鑑み、継続してほしい。
	②食育の推進	●栄養教諭等が全学級で食に関する指導を行い望ましい食習慣の育成に努める。	●生徒が成長期に必要な栄養を摂取することの大切さを理解するとともに、給食を残さず食べている。	●生徒・保護者対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上 ●給食(主菜・副菜)の1人当たりの残量 →前年度より減少	生7No.12 保7No.6 残量の増減(12月末時点)	83% (83%) 91% (89%) 15.1g (15.5g)	◆今後も栄養教諭等による食育指導や保健体育科、家庭科、学級活動等の時間を通して、栄養バランスの大切さの理解を深めさせたい。 ◆給食の残量自体は減少しているが、時間内に食べ終わらない生徒も見られる。配膳やおかわりの仕方を工夫し、食べる時間の確保に努めていきたい。	
信頼される教職員	①一人一人の生徒に寄り添った指導と支援	●教育的愛情をもって生徒に接するとともに、生徒の良さを見つけ、「三義賞」「唐沢賞」を積極的に授与する。	●生徒が教職員に気軽に相談するとともに、一人一人を褒めて・伸ばすことにより生徒の自尊感情が高まっている。	●生徒対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上	生7No.16 生7No.17 生7No.18	87% (88%) 91% (94%) 86% (86%)	◆生徒アンケートでは、全ての項目が90%以上までに至っているわけではないが、担任との信頼関係は比較的高く、共感的な人間関係が育まれていると考えられる。今後も引き続き、信頼関係を深めていきたい。 ◆「三義賞」「唐沢賞」については、小さなことでも生徒の良さを見つけてその都度表彰し、自尊感情の向上につなげていきたい。	◆北中の先生は本当に熱心に生徒を指導してくれていると感じる。教育的愛情をもって生徒に接してくれていてありがたい。 ◆生徒は誉められたいと思っている。どんなに些細なことでも先生から誉められることでモチベーションのアップにつながる。 ◆「ホームページを作ろう」という授業を参観した。生徒に指導するには、先生ができるようになる必要がある。研修等で学んだ後、繰り返し自己研修すると、かなりの時間が掛かると思う。働き方改革と照らし合わせた上で、研修を積んでほしい。
	②教職員の服務の厳正と保護者との連携	●職務に対する使命感と誇りを持ち、必要に応じてこまめに連絡をとるなどして保護者との連携に努める。	●保護者が我が子を安心して学校に通わせている。	●保護者対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上	保7No.7 保7No.8 保7No.9	88% (86%) 82% (86%) 93% (91%)	◆校内研修等により教職員一人一人の責任感などが向上し、きめ細やかな対応につながっていると考えられる。今後も家庭へのこまめな連絡などを心掛け、保護者の方々と連携して生徒の育成に当たりたい。 ◆人権感覚の向上についての項目では、昨年より4%低い結果となった。今後更に人権感覚を磨き、人権意識の高揚を図れる指導を心掛けていきたい。	
家庭・地域・小中学校との連携	①開かれた学校づくりの推進	●保護者や地域住民等に対して、各種たよりや学校Webサイト等を通して、学校の様子を積極的に情報発信をする。	●保護者が学校教育活動に関心と理解を示している。	●学校Webサイトの更新状況 →毎日記事を掲載 ●保護者対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上	更新状況(12月末時点) 保7No.10	794件 (727件) 95% (93%)	◆学校Webサイト掲載数は年々増加し、毎日更新することができた。今後もより充実させ、情報発信に努めたい。 ◆大根や白菜などの野菜を給食センターや子ども食堂などに提供でき、つながりを深めることができた。また、三義唐沢SSCの方々の御協力により、制服バンク等の活動ができていく。今後も更に充実させていきたい。	◆北星祭では、今年度もオンライン配信をしてくれてありがたかった。また、学校Webサイトでは、毎日記事が更新されていて素晴らしい。 ◆佐野学は地域について学ぶ良い機会である。今後小学校とも連携し、進めてほしい。 ◆三義唐沢SSCの制服リユース活動は、学校の枠を越えて、市全体に関わる活動として広げてほしい。また、子ども食堂をはじめ地域とのつながりが必要な活動を、市や県とともに工夫し実施していく必要があると思う。
	②小中一貫教育の推進	●小中一貫教育佐野北推進ブロックの各部会で定めた取組を実施する。	●小学校から中学校への円滑な接続が図られ、系統性のある学習指導と生徒指導が展開されている。	●ノーメディアデーを実践した生徒の割合 →肯定的な回答が80%以上	実践生徒	76% (83%)	◆教員主体の活動から生徒主体へと変えてノーメディアデーを実施した。さらに、成果をあげるための工夫をしていきたい。また、小中学校が連携して交流会や授業見学などの機会を増やし、教員同士の交流に努めるとともに、生徒指導の充実を図りたい。	